

2022年8月16日発行

事務所 武石地域総合センター内  
TEL:0268-85-2511  
<https://www.s-takeshi.jp>  
印刷 中澤印刷株式会社



## 熊沢峠 トレッキング

6月4日(土)、つくる会ふれあい交流部会では、熊沢峠トレッキングを行いました。

この日は、昨年とは逆コース、丸子の霊泉寺を出発し、武石下小寺尾に向かうコースで行われました。

小学3年生から最高齢は90歳の鳥屋の奥村森代さんまでの25人が参加しました。奥村さんは主催者もちょっと心配でしたが、一歩ごとに「足は大丈夫、足は大丈夫」と言いながら頑張り、全員無事完歩できました。

奥村さんに寄稿していただきましたので、要約して紹介します。



### 復元した熊沢峠

熊沢峠を復活させたいという若い人の話を聞いたとき、戦時中、学童疎開で霊泉寺温泉の旅館で生活している子供たちへ、河原を開墾した畑で収穫したサツマイモを背負い熊沢峠を越えて慰問に行ったことがよみがえりました。

今回峠道を歩くということを知り参加したいと思いましたが、皆さんに迷惑をかけるのではと不安な気持ちもいっぱいでした。

小学生の元気な声に励まされ、前後を見守ってくださる方々に助けられながら一步一步登りました。展望の雄大さに力をもらい、足元の花や苔、

奥村森代

積もった落ち葉などに感動しながら、喘ぎあえぎたどり着いた頂上で「やった!」と思わず叫んでしまいました。

武石側も皆さんに見守ってもらい、下りきり感謝の限りです。主催者の方から「奥村さんに参加してもらえてよかったです」と声をかけていただき私もこの上なくうれしい日でした。歩き通せたことをこれからの糧としたいと思います。そして住みよ武石、未来につながる道が開かれますことを念じております。

## 交流演奏会、復興支援イベント 地域と音楽をむすび隊

7月23日(土)、武石の住民有志グループ「地域と音楽をむすび隊(代表 児玉篤人さん)」が武石総合センターを会場に交流音楽会、復興支援イベントを開催しました。



武石に久しぶりの賑わいが

7月中旬からのコロナウイルスのかつてない感染急拡大のため、当初予定していた出場者も何組か出場できなくなり、午前に行われた小学生の吹奏楽などは、室内のホールから急遽屋外に場所を移して行われました。

西内小学校の金管バンド、丸子中央小学校の合



西内小学校の金管バンド

唱クラブ・金管バンドが演奏を披露し保護者など、200名を超える人が訪れ武石も久々の賑わいとなりました。

武石総合センターの駐車場では、復興支援マルシェが開かれました。2011年の東北大震災の被災地石巻市の特産物や2019年の台風19号で被災した長野市長沼地区の支援のブースなどのほか、唐揚げや焼き鳥、ソフトドリンクなどのマルシェや、風船アートのコーナーなどが10数店ならびました。また、上田市社会福祉協議会のフードドライブコーナーなども設けられました。

大宮諏訪神社では(株)小山林産の協力によりツリークライミングの体験も行われ多くの人を楽しんでいました。

またこれに合わせ、武石風土つなぎ隊のつなぐ家でも開店2周年の記念イベントが開催され、人気のピザ焼きコーナーには行列ができていました。



ツリークライミング



バルーンアート 何ができるかな?



アルクマと真田パパ丸も登場

## たけしかルタ歴史さんぽみち 子育て・教育文化部会

7月30日(土)、第7回目となる「たけしかルタ歴史さんぽみち」が開催され、今回は鳥屋地域を探索しました。夏休みに入り小学生5人と保護者を含め26人の参加がありました。

まず、鳥屋公民館から鳥屋城跡に向かい、約1kmの山道を途中休憩しながら1時間かけて登りました。参加者は、眼下に見える丸子や長和の街並みを眺めて当時の戦に思いをはせていました。

次に鳥屋弥勒堂に向かいました。鳥屋自治会の好意でお堂を開けていただき、優しいお顔の弥勒菩薩坐像を拝観しました。

「ふるさとかるた 武石村」には

「せきん様 大きなわらじで 疫病はらう」  
「みろく様 五輪の塔を 前に抱き」

の2か所が詠まれています。



## 武石新橋花壇の清掃 自然・生活環境部会

6月4日(土)、観光シーズンを前に美ヶ原高原への玄関口でもある武石新橋脇の花壇をきれいにしようと、自然・生活環境部会では部会員十数名が、県道わきの土手の草刈りや花壇の手入れ、清掃を行いました。

武石新橋の市之瀬側は、県道の両側が高い土手になっていて、長い草が県道の上に覆いかぶさるように繁るところです。自然・生活環境部会では交通安全協会などと協力しながら、この場所の草刈りを5年にわたり継続してきています。



部会では、これからも計画的に武石地域内の環境美化活動に取り組んでいくことにしています。



## じゃがいも掘り 産業・経済部会

7月23日(土)、産業経済部会は地域の子供たちと家族15名が参加して、立派に育ったジャガイモを収穫しました。子供たちは、掘ったジャガイモを家に持ち帰り、おいしくいただいたそうです。

## 信廣寺住職の晋山式

5月29日(日)、下武石信廣寺では晋山式しんざんしきが行われました。晋山式とは先代の後を継いだ新住職が任命を受ける正式な儀式でありお披露目式でもあります。昨年5月に予定していたものですが、コロナのため1年延期となっていました。

8時に安下処あんげしよである七ヶ公民館を出発した聲山道新住職は、随行の僧侶や檀家総代等とともに「梅花講」の女性8人が唄う御詠歌に導かれ、大傘に覆われて歩きました。数十年ごとにしか見られない行事に、沿道では多くの方々が行列を見守り、お寺からはお祝いの紅白餅が配られました。

信廣寺山門に到着すると敷かれた緋毛氈へいもうぜんの上を進み本堂に入ります。本堂前には回向柱が立てられ、五色の紐が本堂に安置された本尊の中指に繋がっています。

信廣寺本堂での儀式には、曹洞宗総本山永平寺(福井県)と総持寺(神奈川県)からの専使や長野県の宗務所長、近在寺院からの多数の僧侶、檀家総代、世話人など100名を超える関係者が参列

しました。

式では辞令の読み上げや読経などのほか、禅宗仏教特有の禅問答など一連の行事が半日をかけて行われ、厳粛のうちに第32代信廣寺住職が誕生しました。

信廣寺は永禄元年(460年程前)の開山と伝えられています。



## 「地域福祉」にアプローチ 課題解決に向けワークショップ 健康・福祉・体育部会

「デマンド交通は使いづらそうだね!」「でも、タクシーに比べたらずっと安いし、病院の通院だけじゃなくてパチンコや飲みに行くのに使ったって良いんじゃない?」。つくる会健康・福祉・体育部会では、7月12日夜「地域福祉」をテーマに、部会員15名を4グループに分け、ワークショップを行いました。

武石地域では、人口減少と少子高齢化が急速に進行し、これに伴い高齢者の一人暮らし世帯が増加しています。話し合いでは「武石の福祉で感じていること」「気になっていること、問題点」「この部会で出来そうなこと」の3つのテーマに絞り、グループ内で寄せられた意見を付箋に書いて模造紙に貼り付けて問題点を浮かび上がらせるワークショップの方式で進められ、最後にグループごとにまとめた意見を発表しました。

福祉サービスや制度についての情報不足、制度



は知っていても利用方法が分からない、災害時の対応、移動手段としてデマンド交通の活用、活動を支える人材育成、日常の健康づくり、ボランティア養成講座開催、世代を超えた交流の場確保(交流サロン)、高齢者の体力測定、空き家の活用、この他にも様々な意見が出され、課題が浮き彫りになりました。

課題解決に向けて、今後部会として対応できるもの、つくる会全体で取り組む必要があるもの、民生委員や社協、行政等につなげていかなければいけないものなどに仕分けしながら「地域福祉」が抱える課題解決に向けて、次回の部会でも継続して話し合いを深めていくことになりました。

## 美ヶ原トレッキング 思い出の丘コース 健康・福祉・体育部会



健康・福祉・体育部会主催で、7月16日(土)に美ヶ原思い出の丘トレッキングを開催しました。

昨年冬の土砂崩落で巣栗から武石峠に通ずる県道が通行止めのため、武石総

合センターから三才山峠・美鈴湖を經由する大回りで思い出の丘駐車場にバスが到着しました。

例年になく6月中の梅雨明け宣言がされた後は皮肉なことに雨の日が続き、この日も天気が危ぶまれましたが幸い良好な天候に恵まれました。

思い出の丘駐車場を出発し、爽やかな風をうけ右手に松本平を一望しながらなだらかな丘を越え、美ヶ原自然保護センターまでの4.5 kmを歩きました。

このコースは、美ヶ原の中ではなじみの少ないコースのため歩く人はあまり多くはありませんが、整備された歩道の周りには、いく種類もの高山植物が咲き、参加した24人を迎えてくれました。

## 中学生の職場体験受け入れ

つくる会では、7月19日から3日間、依田窪南部中の職場体験学習を受け入れました。今回受け入れたのは2年生の竹内蒼恭君と坂巻奈央子さんと、エリアトークのアナウンサーを体験してもらいました。

最初に事務局の廣川アナウンサーから、しゃ

べり方の基本、エリアトークの役割などの説明を受けた後、緊張した面持ちでマイクに向かい、実際に朝と夜の放送をしました。



## 館跡は上田藩の陣屋に、今も残る陣屋の建物？

郷土史家 見玉卓文

金子新十郎さんの記録では、高野山蓮華定院に書状が残る大井正棟は天正10年に病死しているので、天正11年閏1月真田昌幸に敗れたのは息子の大井玄太ということになります。玄太が真田氏から「世話料を請けとり」は、領地を差し出すかわりに生活維持の扶持をもらったという意味でしょうか。大井氏の家臣は農民になって主人を支えたと思われます。

武石大井氏と同じ小県の国衆祢津氏は祢津の定津院に、浦野氏は浦野の東昌寺に一族の墓所があります。丸子氏は菩提寺がはっきりしません。大井氏は信廣寺本堂の真裏に「開山さん」とよばれる墓所がありますが、大井正棟の墓からで歴代の墓所ではありません。

金子新十郎さんが、大井氏は「元和8年(1622)から20有余年本村に住居があり」と記すのと、信廣寺が寛永年間(1624～43)に小沢根の善能寺から現在地に移ったとする時期は符合します(桜井松夫さんは、『武石村誌』で大井正棟が現在地に信廣寺を開いたとしています。明治14年の『下武石村誌』には寛永年間に移転とあります)。浪人の大井氏は善能寺の信廣寺の側に住まっていたのではないのでしょうか(延宝4年(1676)に、信廣寺に大井正棟の墓を建てた家臣の子孫と思われる掛河九左衛門の住まいも、その時は小沢根です)。

善能寺の広川天神には広川さんたちがお祀りする「武石御前之塔」と記された供養塔があり、境内の傍らには五輪塔の部位がたくさん集められています。移転まえの信廣寺と大井氏墓所はこの辺りにあったのかもしれませんが。

さて、江戸時代になって、大井氏の館跡には上田藩の陣屋が置かれたようですが、武士が常駐した気配はありません。最近、天保7年(1836)に、下武石村庄屋が上田藩作事奉行(建設課長)あてに提出した「御陣屋破損」に関する書類が見つかりました。それによれば、「高塀63間3尺」の修理が見積もられていますから、ぐるり塀が廻らされていたようです。正門、脇門などもあったでしょうし、内部には建物もあったと思われるのですが、文政の地押し(1826～30)を指揮した郡奉行 相馬与右衛門たちは、長期の出張であったにもかかわらず、ここを本拠にしたのか確実な資料がありません。古文書などが発見されること

に期待しましょう。

大正期にはその姿がかなり残っていたのでしょうか。小山真夫さんは『小県郡史』で次のように記しています。

総郭は東西50間(約90m)、南北80間(約144m)、本郭の南及び東には武石川の水を分かち引きて濠(ごう)となす。今にこれをお堀という。北及び西には土堤あり、西南には長32間(約58m)、幅3間(約5.4m)の内濠の跡残れり。

明治14年の『下武石村誌』には、本郭内は「大部分が武石郷小学校の敷地だが、1畝12歩(約139㎡)が武石郷共有郷蔵敷および小区扱所(村役場のようなもの)となっている」とあります。

明治になり藩が廃止されると、藩の建物や土地は払い下げになります。陣屋の建造物も同じように払い下げられて取り壊され、敷地も土塁などは均されたものと思われる。

堀之内の小山直さんのお宅の古い門は、陣屋から昔の小林商店の脇を通って役場方面へ抜ける北門を移築したものだそうです。

市ノ瀬の柿島真幸さんと下本入の拙宅の土蔵は、郷蔵(6間×2間半)を二つに分けて移築したものと真幸さんが伝え聞いていました。柿島さん分は市ノ瀬まで「曳家」で移動したそうです。拙宅分は通常通しであるべき桁が三尺ほど繋いでありますから、柿島さん蔵の妻の軒を確保して、拙宅分を切り込んで解体し、部材を運んだものと思われます。拙宅分は大工仕事のできた高祖父が自力で建てたようで、屋根は置き屋根ではなく(現在は改装)、窓も中心線からずれていません。誇らしげに「明治八年十二月此れを作」と自らと妻の名を柱や板壁に記しています。



小山直さん宅に移築された陣屋北門



柿島さん宅蔵の扉、左右にひく扉のなごりか、取っ手と反対にひく。



拙宅の蔵、切断した側に窓を作ったが中心線からずれている。

武石を盛り上げる  
人々グループ紹介

# 武石の人々 団体



バラ園を造り手入れをする

宮下 尚武さん  
節子さん

**武**石公園の裏側、県道沿いの畑に小さなバラ園があるのを知っていますか。300平方メートル弱の畑に約300種・300株のバラが植えられています。春と秋には赤、黄、ピンクなど様々な色のバラが里山風景の中で輝くように咲いていて、近くを通る人たちの目を楽しませています。

このバラ園を造り、手入れをしているのが、武石出身で現在長野市にお住まいの宮下尚武さんと奥様の節子さんです。月に2回ほど長野市から通い、ご夫婦で作業をしています。

バラが趣味の宮下さんは、自宅の周りに鉢植えのバラを置いていて、バラ以外にもたくさんの花に囲まれたお宅としてテレビで話題になったこともあるそうです。自宅の周りに鉢を置けなくなってしまったため、15年ほど前から休耕地となっていた武石の実家の畑にバラを植え始め、少しずつ株と品種を増やしてきたそうです。

バラの魅力について、「バラはきれいで、咲いている姿を見ると気持ちが休まります」、「手間をかけると本当に良いバラが咲くので、手を入れれば入れるほど良さがでます」と話してくれました。

7月中旬にバラ園を訪れた時は、畑の草刈りと咲き残った花の摘み取り作業をしていました。「この時期は草刈りとテッポウ虫(カミキリ虫)の駆除が大変で、今朝も早々に虫を何匹かやっつけました」と尚武さんは笑っていました。

武石でバラ園を始めて以来、「花が好きで都会の人がこの辺を通りかかると声をかけてくれたり、家内も友達を連れて見に来たりして、バラを介して

色々な人との繋がりが増えたことが良いです」と尚武さんは話していました。また節子さんは、「近くを通る地元の人や農家の人から“楽しみにしているよ”と声をかけてもらえるのがすごくうれしいです」と話していました。



このところ、仕事の都合でバラの手入れが十分にできないのが悩みで、尚武さんは、「今はバラの背丈を小さくして株をしっかりと育てるよう、できるだけ手間をかけないで枯らさないようにしています」、「将来、花で地域のイベントなどに役立てば良いなと思っています」と、また、節子さんは、「バラ以外にもラベンダーなどバラと合う花をいっぱい植えたい」と話していました。

お盆の休みには全ての株を刈込み、秋からきれいに咲くように作業をする予定です。少し涼しくなる10月中旬が見頃とのことです。この秋はぜひ見に行ってみたらどうでしょうか。